

2018年1月30日 千葉大学アカデミック・リンク・センター  
千葉大学アカデミック・リンク・セミナー/ALPS セミナー  
内部質保証に資する IR の機能・動向・実践事例  
参加者アンケート集計結果

当日参加者数： 69名 アンケート提出数： 50件

千葉大学アカデミック・リンク・センターは、教育関係共同利用拠点として、「教育・学修支援専門職」の養成のために必要な研修プログラムの構築・運営の準備に取り組んでいきます。今後の活動のために、本日のセミナーに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。なお、記載いただいたご意見・ご感想は、個人名・組織名が特定できないかたちで公開する場合があります。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・ IR の流れ；早稲田大学の状況など普段からでは見えないところが聞いて良かった。
  - ・ 学内、他大の IR 実施状況に関して、意図せずに分散型になっていること。
  - ・ IR の意味、必要性が事例とともに説明されたため理解できた。
  - ・ 日本の IRer が置かれた状況がいかにも大変かよくわかりました。  
早稲田の取り組みがすごいと思いました。特に、職員に対する研修は、ぜひ色々な大学で実施されたらよいと思いました。Moocs に公開して頂いて千葉大の職員研修として受講するなどできたらいいのと思いました。
  - ・ 問題意識の重要性。具体的に何を知りたいのか、どこを改善したいのか、ということクリアにすることが IR において重要であるということがわかりました。
  - ・ 分散型 IR (機能化) について
  - ・ データの数値だけがすべてではない。そのデータを活用してコンサルすることが大事。
  - ・ 単語としてしか知らなかった“IR”の背景や各大学における実情を知ることによって、具体的な内容を伴うものとして理解できた。
  - ・ IR 担当不足の現状。
  - ・ 他大学(私立)の状況が理解できた。
  - ・ IR で成果をあげることが難しいこと。
  - ・ 分散型 IR と EMIR について早稲田事例が参考になった。  
教育に関する IR 担当者の悩みは、良くわかります。ここが課題研究となるのだと思う。特に、学修成果の測定の難しさはよくわかる。
  - ・ アメリカにおいては IR が広く浸透していること、そして、教員よりも職員が中心となって IR を担っているという点が参考になりました。
  - ・ データの見える化が、初めのステップであるということ。  
何が問題であるのかの認識。(それぞれの部門での洗い出し、何が必要か等)
  - ・ 分散型の IR が一つの情報収集のあり方だと知って大変勉強になりました。
  - ・ IR Officer という言い方。  
分散型 IR の有効性。
  - ・ AIR や進研アドなどの Web のリリース。
  - ・ 精進するうえでの基本的な考え。
  - ・ IR の背景及び学内での位置づけ。
  - ・ IR はコンサルとしての取り組みであること。現場がどれくらい頑張れるかを確認したうえで進めていくというのが発見でした。
  - ・ IR について多面的な話を伺えてよかったです。
- (以上、原文まま)

- ・分散型 IR の有効性、職員の育成。
- ・IR の基礎を確認したうえで大学の事例と問題点を把握できた。
- ・早稲田はがんばっている。
- ・分散型 IR という仕組みの持ち方があるということ。
- ・複眼的な視点（複数の部署から）で、IR を行うことが効果的であるとの考え方。
- ・IR と教育の質改善の関係がすっきりわかりました。データとして有効にできるまでのプロセスを数年～10年、20年単位で戦略的・計画的にとりくむ必然性もみえました。悩みがわかって共感できてそれが何よりでした。
- ・教職協働や組織について分かったこと。
- ・IR の活動の重要性と今後、大学として考えて教育に生かす方向性見えた。岡田先生の講演で FD,SD に IR の活動内容をどの様に生かし、真に教育の質向上に生かすことのヒントを頂きました。
- ・IR に要する知識、技術の3層モデル ⇒ 逆手順による取得が可能 ⇒ 教職員でない者としては今後実施してみたい。
- ・RQ の細分化 ⇒ 数値だけではない ⇒ 変換の仕方が非常に大事である。
- ・データの作成の複雑さ大変さを感じました。能力の測定のむずかしさを感じました。IR 相当者の苦勞が分かりました。
- ・分散型あるいは機能としての IR という「スタンス」を改めて把握できたこと。IR はすべてのデータを持ち、「神がかった分析」も時に求められるが今の状態で何ができ、次にどうすべきかを IR 担当者としてもっと発信していく必要があると考えた。（トラブルにならない程度に）
- ・3人の講演者ともわかりやすく示唆に富むご講演でした。
- ・IR の必要性、具体性が聞けて自部署の業務で数値を拾い直していきたい。
- ・職員の方との共同
- ・先進的な事例を紹介していただくことができ、大学職員の立ち位置を再確認できました。
- ・IR の歴史。
- ・IR 担当者の教育や運用の課題が分かった。
- ・IR というものが、より身近になりました。
- ・早稲田、千葉大における教員（研究者）の係わる IR 活動・取り組み・課題等について。

(以上、原文まま)

## 2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・日本では、どこまで積極的に進めていこうと思っているのか。
- ・日本の大学では、多くの場合 IR 担当者が1名で行っている。その場合 IR の成果は組織では無く個人の能力に左右される。しかし IR 担当者はほとんど任期付だが、組織としてどの様にして継続性を担保するのか？。
- ・3 ポリに係る質保証のための具体的な取組。
- ・学修効果の見える化をどのように実現はどうしているのか？。(何を持って学修効果がある、ないを判断するのか、指標は?)  
IR 要員さえ増えれば課題解決できるものなのか？。
- ・アメリカに比べて日本において IR が未だ十分に普及していないのは、どういった環境的な要因があるのかということが気になりました。
- ・IR の必要性を上層部にどのように理解してもらえばいいのか。(IR が未だない組織でどうやって IR に取り組む体制をつくれるのか?)
- ・松竹梅の具体例。
- ・日本の大学の IR 業界が今後どうなっていくのか。
- ・各人の実際に則したお話が大変有意義でした。
- ・量化できるデータ蓄積はやりやすいですが、教育の Out come としての質的データをどう IR にしていくかはかなりきちんと議論しないと、リスクーだとも思いました。  
岡田先生のプレゼンもっと突き詰めて考えていきたいですね。  
ディスカッションの姉川先生の応答ももっともっとオープンに話せるといいですね。
- ・入試データの活用例についてもっと伺いたいと考えたこと。
- ・実際に IR のスキルをもった教員や職員を配置する場合の人材育成の方法について。  
学生の成績出身地などの個人に関わるデータは(卒後も含めて)保護者・本人に許可を得るなど倫理的な配慮はしているか？。
- ・エンロールマネジメントで卒後の情報をどの様に集めていくのか、その手法を知りたかった。
- ・内部質保証に資するテーマであったが教育の質保証である学修成果については、良い答えが見えなかった。
- ・職員の方との共同方法。
- ・小規模大学でどのようなことができるかヒントになるような事例をもっと知りたいと思いました。
- ・大学教員の立ち位置。(特に IR 担当になった教員)
- ・質保証は、議論することではなく、実践することではないでしょうか。
- ・千葉大学における IR と事務職員の業務の関連について。  
アカデミック・リンク (ALPS セミナー) や岡田先生の教学 IR は、研修会の実施や部局からの問合せ対応など尽力なさっている様子を伺いましたが、事務職員主体の IR に係る取り組みについて、ビジョンや実態がよく分からなかった。

(以上、原文まま)

3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- ・教員と支援者が対等である事が重要（それぞれの役割を理解し、尊重し合う事）  
必要な能力（コミュニケーション能力、広い視野、行動力など）  
早稲田大学、聖心女子大学、東京都市大学におけるネパールジャパンプロジェクト（教員、職員、業者、OBが参画）
- ・基本的な社会調査の技法と数字と文字で論理を考えるか、プレゼンテーション能力が基盤的能力として大切だと思いました。でも、それ以前にインセンティブがなければ、どうあってもやる気は出ないと思います。現状では、インセンティブどころか頑張るほど大変になる。浮いてしまうなど負のインセンティブです。
- ・認証評価や内部質保証に関する知識は教育・学修支援系の職員に限らず大学で働く教員・職員は知っておくべきだと思う。そのような意味でも本日のセミナーはとても参考になりました。
- ・問題解決能力だけではなく、まだ明らかになっていない潜在的問題を発見していくかが重要だと思います。
- ・他部局とのコミュニケーション能力。
- ・IRにおける学生の活用法に係る知見が必要だと思います。
- ・当センター（看護実践研究指導センター）のとりくみと有機的ネットワーキングをご検討下さい。（看護学教育のCQIモデル開発）といってもこちらも組織としての取り組みの継続が??ですが。
- ・私学の大学ポートレートは、私学団体の強い要請から比較ができない仕組みで作成した為、使えないポートレートになってしまった。
- ・統計などの基礎的スキルとともに、教育についての深い理解が必要だと思います。
- ・IRの到達点は何か？学生が就職して社会貢献し、〇〇大学を卒業してよかったと思われることか？と思う。
- ・個別性に注目した取り組みが多くデータの継続的蓄積ができない。
- ・小規模大学であっても職員一人一人が自大学を支えるという自覚をもって自分の業務のほかの部署に関する知識も進んで身につけるように努力すべき。
- ・大学教員に対するIR理解の向上プログラムが必要と考えられる。
- ・岡田先生のご報告は、本学の実態をおまとめでしょう。しかし、必ずしも全学周知されていないのでは？。

(以上、原文まま)

#### 4. 本日のセミナーの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・内部質保証の難しさを再確認しました。
- ・折角遠くまで来るので、2部構成で3時間位にして頂きたい。
- ・価値のある情報とはなにか！知りたい調べたいことのために必要な情報がなにか、まずそこを明確にしなければならぬと思いました。
- ・姉川先生のコンサルのスキームはとても重要で、今回はたまたま IR でしたが、本来、大学の業務のすべてにこのようなスキームがあるとよいのではないかと思います。例えば、財務、国際交流、組織運営等この人に相談したら改善できるといった組織が理想だと思いました。（現状の千葉大にはそういうものはないと思うので）
- ・IR は「何かをしてくれるところ」という意識があったが、「ともに何かをするところ」という機能としての IR に興味をもちました。
- ・貴重な機会をありがとうございました。
- ・複数大学でデータ比較することで見える情報もあると考えます。  
複数大学（コンソーシアム）における共同 IR 事例等、今後、ご紹介いただきたい。
- ・非常にバランスのとれた IR に関する FD 研修会でした。従いまして、IR を深く頭に入れることが出来ました。再認識できました。
- ・潜在的問題を発見する力を身に付けていくためにも、より IR について深く知りたいと思うようになりました。
- ・IR 担当者として大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・一日で行うなど、セミナーがあってもいいと思いました。
- ・3人の先生から幅広く意見をうかがえたので大変参考になりました。
- ・本日もセミナーの機会をありがとうございました。竹内先生はじめ運営に関わられた皆様ありがとうございました。
- ・勉強になりました。
- ・学修成果の可視化にむけて、多くの課題があると再認識しました。
- ・ALC のプログラムは本当にいずれも大学の事務系職員が参加できる（している？）ともっともっといいのにはと思います。（特に30代40代）の事務職員に“人材”が眠っている気がします。
- ・もう少し、じっくりと各先生方の講演をお聞きしたいと思いました。
- ・内部の質保証に大学の財政が入っていない。親が子を預ける大学が4年間もつのか破綻しないのかといった情報も大切なのではないかと考えます。
- ・具体的な内容に触れてくれてよかった。
- ・とても勉強になりました。
- ・部局でのデータでどのようなものが活用できるのか教えてもらいたい。
- ・岡田先生のお話は内容がとても詳しく丁寧で大変勉強になりました。
- ・具体的な内部質保証の確認のしかたなどを今後ご教授願いたい。
- ・13:30から16:00にするとプレゼンテーションが各10分プラスになったのでは。
- ・事務職員の実施している（または将来的に計画している）IR の取り組みと、アカデミック・リンクの活動等の連携について詳細を伺えればと思いました。（ALPS セミナーと事務職員向け FD 研修との関連がよく見えなかった。事務職員・教員向けなどというより、対象が有志向けの印象がありました。）

（以上、原文まま）

5. 次の(1)、(2)について、該当するものに○をつけてください。

(1) a. 千葉大学外の方 26名 b. 千葉大学内の方 23名 (回答なし 1名)

(2) a. 学生 0名 b. 教員 12名 c. 大学職員(図書館職員を除く) 23名 d. 図書館職員 1名  
e. 出版関係 0名 f. その他 4名 (回答なし 10名)

6. セミナーを何で知りましたか?

a. Web(アカデミック・リンク・センター) 10名 b. Web(図書館) 1名 c. Web(千葉大学) 2名  
d. 図書館内電子掲示 0名 e. ポスター 1名 f. センターからのメール 29名 g. Facebook・Twitter 0名  
h. asagao メーリングリスト 4名 i. その他 5名 (担当課としてなど) (複数回答あり)

7. 学外(千葉大学外)の方にお伺いします。次の(1)、(2)について、該当するものに○を付けてください。

(1) 参加の経緯: a 所属機関からの推薦・業務命令 5名 b 自身の希望 21名

(2) 旅費の負担: a 所属機関負担 18名 b 自己負担 7名 c その他(記載なし) 1名

8. 千葉大学 アカデミック・リンク・センターでは、セミナーの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。(既に登録されている方は引き続きお届けしますので、空欄で結構です)

お名前: ( ) ご所属: ( )

電子メールアドレス:  申込時に利用したもの  それ以外 ( )

ご協力ありがとうございました。

※ 15名が新規に継続的な情報提供を希望